

環境に配慮したプラスチック容器を紹介する洞田智史
 店長＝岐阜市市橋、バロー市橋店



バイオマス素材を使用し、環境に配慮したプラスチック容器を普及啓発するキャンペーン(岐阜新聞社、岐阜放送など後援)が、岐阜市内のスーパー5店舗で行われている。環境配慮型の容器を使用した感想などを調査するアンケートを実施している。11月23日まで。
 (小田香緒里)

プラ容器、環境配慮型に 県が岐阜市で普及キャンペーン

アンケートで消費者の動向探る

キャンペーンは県が昨年に引き続き実施。アンケートでは環境配慮型の容器は単価が高いため、価格に転嫁した場合に消費者の選択に影響するかどうかなどを調査。昨年の調査では、2%の値上げなら購入すると答えた人が42・5%いた一方、値上げした場合は購入しないと答えた人が27・5%いた。今回の調査では回答者数を増やしてより詳細に消費者の動向を探り、結果は県の施策に活用する。

今回は5店舗にサンプルとして、原材料の一部にバイオマス素材を使用し、廃棄の際に二酸化炭素の排出が少ないなど環境に配慮したプラスチック容器を計約1万5千個配布。期間中には、各店舗がおかずや野菜などの商品の容器として使用する。

岐阜市市橋のバロー市橋店では、唐揚げの容器にキャンペーンのステッカーを貼って使用。環境保護やSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みを進める同店の洞田智史店長(39)は「環境への意識が高いお客さまが増えているので反応は良い。店に置くことで知ってもらうきっかけにもなる」と話す。アンケートに答えるとプレゼントが当たる抽選なども行っている。